

意見交換会による意見と意見書の紹介

意見交換会による意見

「意見交換会」は公募委員と関連団体委員を対象に、平成22年9月27、28、30日の3日間にわたり開催し、そこで出された意見の要旨をまとめたものです。

意見書の意見

「意見書」は専門委員と行政委員を対象に書面にて提出いただいた意見の要旨をまとめたものです。

意見交換会要旨－１

資料５「現状の課題」(p34)には、従前の各種報告資料等で指摘されている「多々良沼の水位の変動の問題」が無いが、その点の位置づけはどうか。

沼の水位の増減は昔からあった。ただし、当時は水位は徐々に上げ下げしていた。

昔に比べて、今は夏の水位も冬の水位も高くなっている。水位の変動時期も1週間から10日くらい早くなっている。

沼の植生の悪化は(水位変動によるというよりも)水質の悪化によるものだと思う。

マコモの芽が出てきても、水位上昇が早いと成長が追いつかないと言うこともあるのではないか

そうでもないとは思いますが。

野鳥観察をしてきて感じることは、春秋の水位変動の時期をもう少し早めれば渡りの時期ともタイミングがあって、(野鳥などには)良いように思うのだが。

(水位変動があっても)地形的には、昔は冬になっても水の溜まる場所があった。

そういった所が、魚の繁殖には良かったと思われる。昭和40年頃までは沼の魚も食糧としてきた。今は水が汚れてそれもできなくなった。

沼自体(の問題)というよりも、周囲の環境の変化によって沼が変わってしまったのだと思う。その辺の対策、上流からの対策をやらないと解決にならないと思う。

下水整備などの対策はすぐにはできなくても、啓蒙活動はできるのではないかと考えている。沼周辺を散歩をしている人は犬の糞を拾っても、それを沼に捨ててしまう人がおり、非常に残念に思っている。やはり、啓蒙していく必要があると思う。

昨年、町長に孫兵衛川(の汚濁)は何とかならないかと言った時に、周辺の既存の住宅が公共下水になかなかつないでくれないのは、初期設置費用や設置後の水道料金がネックになっているので、(補助などの)対策が必要ではと話した。

それは誤解だ。総合的に計算すると、(接続した場合としない場合とで)ほとんど差はない。

そういった誤解がある(ネックになっている)から、補助などして促進してもらいたい。

受益者負担(15万円)+引込み費用(平均30万円)ということで、3年たっても(接続)利用が進んでいない。

沼の周辺のゴミ拾いをすると、溶けない・腐らない樹脂系のゴミが相当ある。土手の周辺ではリポビタンなどのガラスビンも多い。それらが沼に流れ込む前に回収できる施設を設置できないか提案してきたが、以前から河川の中には設置できないということであるのだが。

農家の方が除草したく差を川に捨てるのも問題があるのではないかと。

ゴミを捨てている人に注意しても聞いてくれないことが多い。

近所で行っている道路愛護活動では、モップで道路側溝を200m位きれいにしている。こういった地道な活動が必要だ。

意見交換会要旨－２

城沼周辺については、加法師川をきれいにする会や子供会、育成会、地区老人会などの各種団体が連携して世代を超えて（つながって）活動が長く続いている。こういった取り組みも良いと思う。

農家で使っている除草剤は沼に影響がないか測定してみる必要もあるのではないかと。沼に影響がなければ問題ないが。

多々良川と孫兵衛川の汚れはひどく、臭う状態である。今年は猛暑で、沼北の鶉開田地区の農家の話では、井戸水(自家水)の水が、洗濯水のように泡だったことがあり、今までになかったことだと言っていた

その地区の用水は中野沼から導水しているが、中野沼は一応浄化工事がされており、沼水が原因かどうか疑問だ。

孫兵衛川は水質汚濁、多々良川はゴミが問題だ。

多々良川にはゴミ対策施設を設置することが必要だと思う、又、孫兵衛川には周辺の公共下水への接続についての補助でもしていかないといけないのではないかと。

自然再生を行うための課題として、「適度な人間活動の関与」が必要と言うことだが、(現状では)ヨシ刈りぐらいかな。啓発、啓蒙活動など漁業組合と愛する会(多々良沼自然公園を愛する会)が中心となって、もう少し行っていくことが必要ではないかと感じている。

(現状は)区の行政に対して、区民に対しての働きかけはあまりない。住民も、沼は漁協が(管理を)やっているから、ゴミ拾いなどは「愛する会」がやっているから、といった感覚を持っている。

漁協は閉鎖的な面があり(環境面に積極的でもなく)、愛する会も自然再生の面でもっと力を入れてもらいたい。

立場上言わせてもらおうと、沼も大事だが、(先ずは)周辺道路の整備(歩道部が無く、歩くのが危険な箇所のある)が優先的課題とも思う。

ボランティアも結構お金がかかる。中野沼の浄化施設水路に植栽活動をしているが、タニシやドジョウも復活してきている。

各団体が、同じ目標に向かって役割分担できるような意識が持てるよう、協議会で協議していただきたい。

(協議会の参加団体が)既得権を一度棚上げして議論するようにしていただきたい。それから、木戸堰にはやはり魚道を設置する必要があるのではないかと感じている。

昔は冬の水位がもっと低かった(し、旧木戸堰には魚道ももあった)。

付け加えるが、既得権でも生活権(農業水利権など)は当然守っていかなければならない。

城沼の浄化といってもなかなか難しいが、浄化方法としてどんなものを考えているか。

城沼の浄化については、清流ルネッサンス(事業の執行)で一区切りついていると思うが、その流れの中で今回の事業は行われるのか。

意見交換会要旨－3

鶴生田川上流の清掃活動を地区で行っているが、多々良沼からの導水で薄めている状況である。上流の合併処理浄化槽の設置補助について、上流を特別地区に指定して(設置補助を特別に促進して)対応した方が、早く浄化が進んだのではないか。H6年に多々良沼からの導水が始まったが、礫間浄化施設の手前に落ちている小蓋幹線(農業用幹線排水路)に対しても分水(導水)してくれれば、浄化効果が上がるのではないかと今までに要望したのだが(ダメだったので)あきらめている。

そうであれば、(川水)を一度田んぼの方にポンプアップして(田んぼで植生の間を通して)から戻す方が浄化効果があるかも知れない。多々良沼もまわりの田んぼが浄化していた。県が買収したので今後はどうなるのか。

今年、中野沼の(浄化施設)水路のヨシなどを何度か手刈りしたが、カエルも見かけなかった。群馬県内では春先に農薬を撒いて黄色い風景になっている。屋敷林などもどんどん減ってきて白い風景(ブロック塀)になってしまう。樹木の育つ整備、自然な樹形を保った風景を作ってほしい。出普請を厭わない住民意識の醸成も必要と思う。

城沼のハスは食べられるのか。ハス刈りに参加してもらった人たちにハスを分けてやったかどうか。

田んぼの(で栽培している)ハスに比べて、沼のハスは細長くて形で負けてしまっているのが商品(商売)にはならない。また、昔のように採る人がいなくなってしまった。

今年、城沼ではハスを刈って浚渫していたが、浚渫によって底泥が動いたことは良かったのだが、それによってハスの新芽は増えるだろう。新芽をつみ取るのが最善の方法なのだが。

私は東京で育ったのだが、群馬県では3割の家庭で浄化施設がないということだが、実際(汚水処理は)どのようにしているのか。

現状に関する意見要旨（専門委員・行政委員）

・多々良沼、城沼及びその周辺の低湿地帯は、白鳥やカモなどの野鳥の飛来地として広く知られるなど、動物や植物の多様性は非常に豊かで生態学的に大変貴重な地域と思う。生物多様性の保全に向けて、市民、行政、企業などが一体となって取り組む必要がある。

・多々良沼、城沼および館林城の歴史・文化などに基づいて周辺地域を整備することは、地域活性化などの観点から有効と思う。

・多々良沼、城沼ではアオコの発生が毎年観察されていることから水質は決して良好とは言えないと思うが、以前の状況と比較すると近年回復基調にあると判断される。これまでの取り組みを継続することが重要と思う。また、更なる水質改善に向けて、新たな手法を導入する必要があるかも知れない。

・これまで（公園整備が）一向に進まない現状は問題。きちんと買収地や水辺の周辺を日常管理しながら、計画を進めることはできないか。現在とこれからの進め方を検討する必要があると思う。

・今後水質に係る対策を探る上で、水質の現状を整理しておくことが極めて重要と考える。多々良沼・城沼の水質悪化はいつ頃から始まり、その原因はどこにあるのか、過去の水質対策による効果はどのくらいあったのか、といったデータを整理しておくことは現状把握をするための基礎資料になると考える。

・多々良沼に流入する多々良川、孫兵衛川の流域である邑楽町の汚水処理人口普及率は44.0%と県内ワースト6位（平成21年度末）であり、県平均71.4%に比べて大幅に立ち後れているので、「流入水の水質汚濁（家庭・事業所排水）」の改善の観点から同普及率の向上が急務である。

・邑楽町の汚水処理手法は流域下水道（西邑楽処理区）と浄化槽であるが、今後、大幅に遅れている下水道の面整備を促進するとともに、旧型の単独処理浄化槽から汚濁の主原因である生活雑排水まで浄化する高度処理型の合併処理浄化槽への転換を促進し、かつ管理の徹底できる市町村設置型合併処理浄化槽の導入も必要であると考えます。

・城沼の主な水源である鶴生田川の水質（BOD）は平成21年度県内河川ワースト1位である。館林市の汚水処理人口普及率は74.3%であり、城沼より上流である市中心部は下水道整備が進んでいるが、周辺部においては未だ未整備のエリアが多く残っている。

・多々良沼、城沼とも、山間部からの清澄な水源を持たず、上流河川の表流水のほか、農業用水、工場排水、生活排水、雨水を水源としている。また、閉鎖性水域ということもあり、もともと、汚濁が進行しやすい特質を有している。さらに、近年の人口護岸による河川、池沼の自浄作用の低下も懸念される。

・こうした状況の中、多々良沼、城沼の水質は、以前に比べれば改善されているが、市内の他の河川、池沼に比べれば汚濁が進行しており、かつて生息していた水生植物、魚類等多くの生物が、水質悪化が主原因で消滅してきたと思われる。

現状に関する意見要旨（専門委員・行政委員）

【P. 20②魚類について】

①「・・・、沼内で再生産（繁殖）できる魚類の多様性はあまり高くない。」をわかりやすく書き換え。

●p13の図-16で水質汚濁指標を用いて説明しているが、指標の統一あるいは併記を検討。P14の水質基準の比較も現状を考え検討を、

●P13の2行目の表現を検討。「富栄養化」との表現を用いずに、「常に数値が高い状態が続いている。」としたほうがよいのではないか。

●p14で、多々良沼・城沼の水質を水浴場水質基準と比較は周辺基準を考えれば、厳しすぎないか。

課題に関する意見要旨－１（専門委員・行政委員）

・「田園文化を伝える多々良沼」、「城下町の歴史を伝える城沼」というコンセプトは大変良いと思う。

・上記のようなコンセプトで自然再生を実現させるためには、「水質の改善」「水辺の自然環境の保全と再生」、「美しい景観の保全と創造」は必要な課題と思う。特に生物多様性の保全は今後ますます重要になると思う。

・「田園文化を伝える多々良沼」、「城下町の歴史を伝える城沼」というコンセプトは大変良いと思う。

・上記のようなコンセプトで自然再生を実現させるためには、「水質の改善」「水辺の自然環境の保全と再生」、「美しい景観の保全と創造」は必要な課題と思う。特に生物多様性の保全は今後ますます重要になると思う。

・多々良沼などで観察されている野鳥飛来数の範囲では、その糞による多々良沼や城沼における富栄養化の可能性は低いと判断される。しかし、冬季の減水期に干潟などに蓄積した野鳥排泄物を回収し、農地等において肥料として利用することは良いのではないか。

・水質の悪化についてその改善からという方向は支持する。

・貴重な動植物の保護に関して、当地方の自然が生み出す貴重種を再生するのであって、貴重種を他地域から持ち込む等が自然再生でないという基本的スタンスを確認してほしい。多々良沼は生活の場であるが、個人の庭や花壇ではないという認識が必要。例えばモミジアオイの花が咲いていた。きれいだけどそれで良いのか？

・野鳥などへの餌やりについての規制

今年はハクチョウの時期に天沼にもフスマが撒かれていたのを見た。現在の多々良沼は自浄作用を失っている沼であることを認識し、必要最低限度にしたい。水質改善をいろいろな視点から進めていくべきです。

・「水質の悪化」という課題に取り組んでいく場合、その原因は多岐にわたる。対策を取る上で、それぞれの立場でそれぞれができる対策を取るというのは基本かも知れないが、行政としては、どの対策を取れば一番効果があるのかを見極めることが重要である。そのために、水質悪化の原因および負荷量を理論的に導き、そのデータに基づく費用対効果を勘案し、対策の優先順位を組み立てていく必要があると考える。

・p33「水辺の自然環境」の水辺には水中が含まれていないようなイメージがあるので、水中や水底を含めた表現を再考してほしい。

・東毛地域においては、家畜排泄物や農地から窒素及びリン成分が地下に浸透し、地下水を經由して河川へ流出していることが考えられる。これらは栄養塩類として「沼内で発生する水質汚濁」や「アオコ・臭気の発生」の原因となるとともに、窒素由来のBOD（N-BOD）として鶴生田川のBODを押し上げている可能性が考えられる。

・東毛地域の湖沼及び河川の水質汚濁解析には、この窒素及びリンのメカニズム解明が不可欠であり、農地の窒素過多、リン過多の解消を図ることを本協議会でも課題としてとらえることを希望する。

・同メカニズムの解明には、数年間にわたる調査を要する場合もある

課題に関する意見要旨－２（専門委員・行政委員）

・多々良沼、城沼においてかつての自然を取り戻すための根本的な課題は、水質浄化と考える。そのために、下水道や合併処理浄化槽などの生活排水処理施設を整備することは、第一に取り組むべき課題であり、合わせて工場排水の監視、農薬の使用削減、自然護岸づくりにも取り組むべきと考える。

・この地域には、数多くの住民団体があり、活発に活動しているが、さらに幅広い地域住民の皆さんと協働していくために、多々良沼や城沼の水質、水生生物などの情報を積極的に公表し、地域の貴重な資源として関心を持ってもらう事も必要と考える。

●p33の2行目等で「水質の悪化」との表現が用いられているが、最近10年程度の期間において多々良沼・城沼の水質は改善している時期もある。「水質の悪化」ではなく、「水質の汚濁」などの方が適しているのではないか。

その他意見要旨（専門委員・行政委員）

●水質の面から考えると、周辺市街地の汚水処理設備の整備状況や下水道接続率なども考慮してよい要素と思われる。このため、両沼周辺のみならず、周辺市街地をも一部考慮に入れるような資料の記載方法についても検討。

●上記のほか、p33本文および図-23について、水質以外の他の要素についても一様に悪化（ないしはそれに類似した）傾向として記載されているのはどうか。これらの記載からは、この水域において、複数の要素が複雑な関係性をもっていることは把握できるが、表現については、さらなる検討の余地があると思われる。

●p33で現状の課題と今後の方向について、その関連性が相関図でまとめられているが、p32までの資料説明の中で、十分な説明が仕切れていないのでは？現状分析の中できちんと説明するか、相関図の前に再度、文章で整理した方がよいと思う。

・多々良・城沼地域の自然再生の必要性、当地域の自然特性、他の地域にはない、当地域特有のすばらしさはどこにあるのかといった議論をもう少し深めてほしい。

巴川の自然再生は大きさ規模、立地条件など違っていて、もう少し他によい例がなかったのかと思う。

ミズアオイは、1年草で水湿地のかく乱地域に出現する植物で、植物遷移の影響をものに受けやすい。タタラカンガレイも水湿地のかく乱地域に出現に似た生態をもっている。水質浄化や生態学的な知見、植物遷移の状況も考えた上での検討をお願いしたい。